

# ストーリーで巡る 坂越湾周辺の歴史文化

坂越には、5世紀に古墳が築かれていて、漁業を生業とした集団の存在が推定されています。古文書を紐解くと、奈良時代にはすでに「坂越郷」の地名が見られるほか、仁安3(1168)年には「坂越庄」に船や航海技術を持った集団がいたことがわかっています。

## ストーリー 1 港町・坂越

文安2～3(1445～1446)年における兵庫北関(現在の神戸市)への入船記録「兵庫北関入船納帳」には、積出港として「坂越」の名が登場します。湾状地形と生島によって荒波から守られた天然の良港坂越浦は、漁業と共に廻船業で発展しました。

千種川では、高瀬舟による流通が行われており、年貢米をはじめとした積荷は高瀬舟着場で荷揚げされたのちに坂越の主要道「大道」を通って坂越湾で廻船に積まれ、大坂をは



## ストーリー 2 伝説と信仰の山めぐり

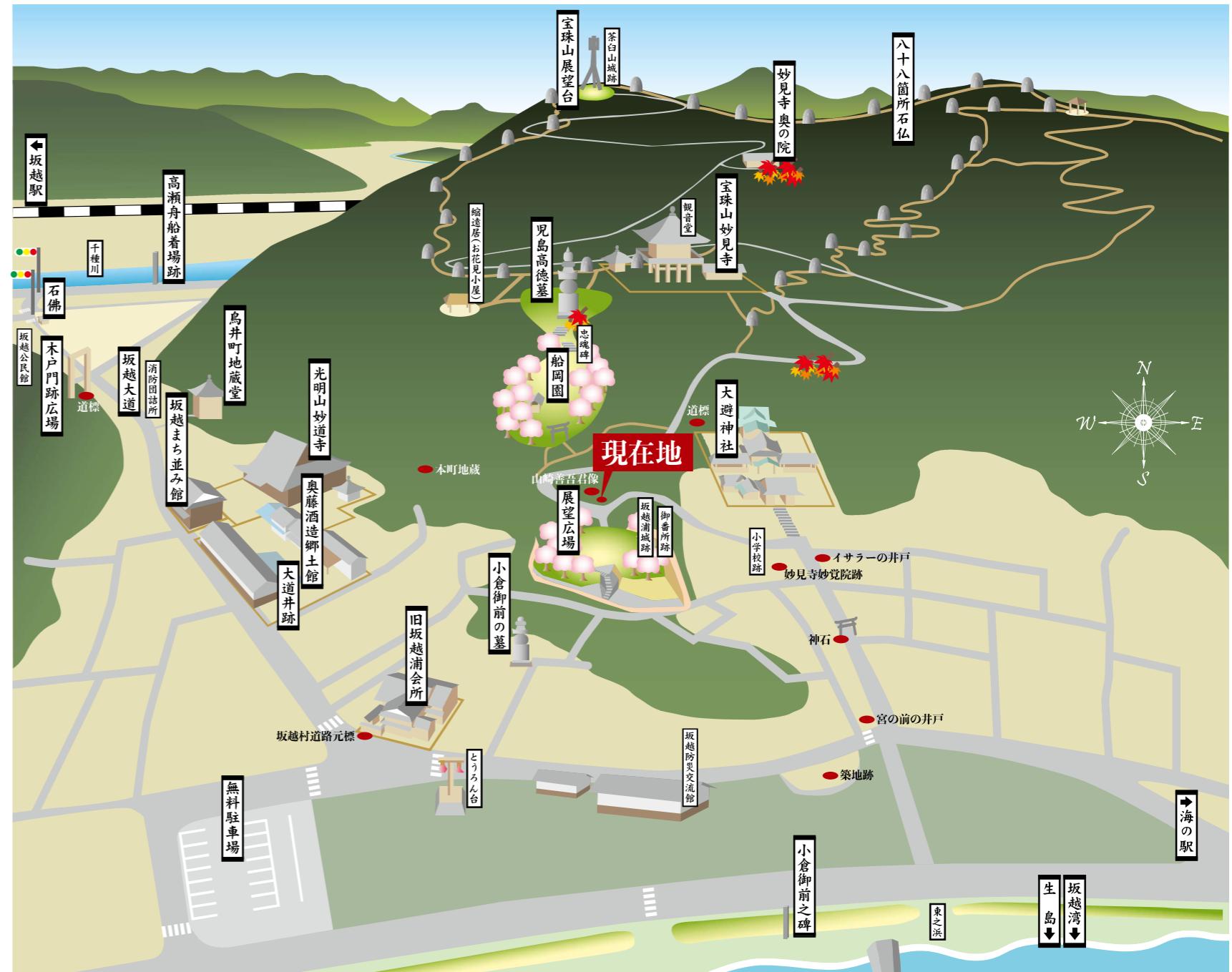
坂越湾と生島が一望できる宝珠山一帯には、秦河勝を祀る大避神社、中世の山岳寺院として栄えた真言宗古義派の妙見寺、中世山城の茶臼山城跡や、その周辺の八十八ヶ所石仏など豊かな歴史文化遺産が残されています。

また新田義貞とともに足利尊氏と戦ったという児島高徳の墓と伝わる五輪塔や、南朝方の皇族であった小倉御前の墓の伝承地など様々な伝説が生まれた地でもあります。

坂越は、江戸時代に「坂越浦」「浦方」と呼ばれ、西廻航路の寄港地として栄えましたが、北前船による主導権を握られた後は、赤穂の塩を運ぶ塩廻船として生き残りました。坂越では、古い町並みが多く残されているほか、廻船業の繁栄を示す歴史文化遺産を数多く見学することができます。

じめとした全国各地へと運ばれました。

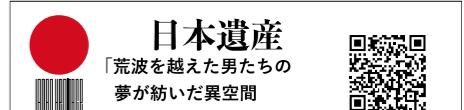
また江戸後期になると、赤穂で生産した塩を運び出す塩廻船で栄え、坂越は港町として活況を呈しました。「黒崎墓所」は、坂越近海で客死した水夫などの墓地で、埋葬者の出身地は北は出羽(現在の山形・秋田県)から南は種子島(鹿児島県)まで広い範囲にわたります。大避神社の秋の祭礼「坂越の船祭」も、近世海運の隆盛を今に伝えています。



## ストーリー 3 古代の海人と秦河勝伝説

坂越には5世紀に古墳を築いた人々がいました。平地の少ないこの地で大きな権力を持っていた集団は、漁業や海上交通を生業とする「海人集団」だったのでしょうか。

秦河勝を祀る大避神社の神地、生島にある生島古墳は、秦河勝の墓と伝えられています。秦河勝は蘇我氏の迫害から逃れてこの島にたどり着き、赤穂の地を開拓したと伝承されています。



ここに掲載したストーリーは、『赤穂市歴史文化基本構想』の成果をまとめたものです。

